

平成27年度 実践女子大学・実践女子大学短期大学部公開市民講座

編集者と語る「本間一夫と日本点字図書館」

岩波新書『指と耳で読む』の原稿

常磐祭参加企画講演会 10月17日(土)午後1時～ 実践女子大学渋谷校舎503教室

- 1 『指と耳で読む』の編集 坂巻克巳氏(元岩波書店新書編集部編集長)
- 2 当事者の想いを伝え続ける 坂本純子氏(岩波書店新書編集部編集委員、前編集長)
- 3 草創期の読書傾向 小林修(本学日本語コミュニケーション学科教授)

特別展 本間一夫生誕百年記念 『指と耳で読む』展

女性たちの優しき眼差しの中で
一点字図書館創設者本間一夫の生涯――

10月12日(月)～18日(日)

午前11時～午後5時 入場無料

会場：実践女子大学渋谷校舎香雪記念資料館(企画展示室2)



お問い合わせ：実践女子大学学務部庶務課

Tel 03-6450-6817

E-mail kokai-koza@jissen.ac.jp

主催：実践女子大学・実践女子大学短期大学部公開講座委員会

協力：実践女子大学短期大学部日本語コミュニケーション学科

実践女子学園香雪記念資料館

社会福祉法人日本点字図書館

後援：渋谷区教育委員会

株式会社岩波書店

編集者と語る「本間一夫と日本点字図書館」 岩波新書『指と耳で読む』の原稿

ごあいさつ

本年は、日本点字図書館創設者本間一夫の生誕百年を迎えます。この意義深い年を期して、特別展「女性たちの優しき眼差しの中で：点字図書館創設者本間一夫の生涯」を開催いたします。

本間一夫は、岩波書店からの新書執筆の求めに応じて、点字図書館事業に捧げて歩んだ道を岩波新書『指と耳で読む』に著しています。この新書は1980年に出版され、現在も読み継がれるロングセラーとなりました。

このたび、この新書の入稿原稿が日本点字図書館の奥村文庫から発見されました。通常は執筆者に返却されることのないまぼろしの原稿です。また、初校ゲラの一部や本間直筆の手紙が担当編集者の手元に残されていたことや、書名決定にいたる変遷があったということもわかってきました。この特別展では、出版に係る背景を知る上で手がかりとなります貴重な諸資料とともに、岩波新書『指と耳で読む』に描かれた世界観を再現するゆかりの写真や物品を初公開いたします。

東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、社会はバリアフリー化を推進する機運が高まってきました。この公開講座を通して、点字図書館事業に生涯を捧げた本間一夫の偉功を広く知っていただき、すべての人々が「自由に読書できる喜び」を実感できるアクセシビリティ向上と「点字文化」の啓発の機会となれば幸甚に存じます。

主催者

※同時開催の講演の部

〈編集者と語る「本間一夫と日本点字図書館」〉

開催日時：10月17日（土）

13:00～16:00（12：30開場）

開催場所：実践女子大学 渋谷校舎503教室

講演の部 1. 13：00～14：00

講演テーマ：『指と耳で読む』の編集

講師：坂巻克巳氏（元岩波書店新書編集部編集長）

概要：1980年に出版された岩波新書の編集担当者が、企画立案の経緯から刊行後の反響まで、舞台裏のエピソードをまじえて語る。その中で、書名が当初の案『私の歩んだ道』から『闇の中の読書』へ、そして『指と耳で読む』へと変わった事情なども明かされる。

講演の部 2. 14：10～15：00

講演テーマ：当事者の想いを伝えつづける

講師：坂本純子氏

（岩波書店新書編集部編集委員、前編集長）

概要：当事者の方がたの想いを伝えるために、出版社ができることは何だろうか。新刊本とともに読み継がれる本を編集出版する立場から、具体的な本づくり、さらにはデジタル化時代の新しい編集技術も含めて語る。

講演の部 3. 15：10～16：00

講演テーマ：草創期の読書傾向

講師：小林 修

（本学日本語コミュニケーション学科教授）

概要：日本点字図書館の草創期（日本盲人図書館）の貸出事業は、昭和15年11月から昭和23年3月まで行われていた。終戦を挟んでいるこの時期の蔵書リストを紐解いて、その読書傾向の特性を語る。

※公開講座・特別展とも参加・入場は無料です。

〈会場〉実践女子大学 渋谷キャンパス

〈交通アクセス〉渋谷駅東口（東急南口）徒歩約10分

表参道駅（地下鉄）B1出口より徒歩約12分

（駐車場・駐輪場はありません。公共交通機関をご利用下さい）

